

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 2025 年度事業計画

2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）は日本アメリカンフットボール協会（Jafa）にとって公益社団法人としての第 13 期となる。協会運営体制を整備し、定款・規則・規程に則った協会運営を進めて行くと共に、策定した Jafa ビジョンに基づき、フットボール界の全体最適化を進め、加盟団体のガバナンスコード運用推進やフラッグフットボール関連の組織運営の拡充を図り、さらに 2028 年 ロサンゼルスオリンピック出場権を確かなものにする年である。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第 5 条第 1 項第 1 号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）が主催する公認スポーツ指導者養成事業の一つとして、アメリカンフットボール競技に関する公認コーチ資格の専門科目講習会を開催する。

アメリカンフットボールを統括する国際競技連盟 IFAF（International Federation of American Football）において、タックルフットボールとフラッグフットボールの二つの競技が主たるアメリカンフットボール競技として定められ、国際大会が開催されてきた。

タックルフットボールの公認指導者資格制度は 2010 年度から開始され 2025 年で 16 年を迎えるが、フラッグフットボールの公認指導者資格制度についてはその必要性は認識されていたものの未着手であった。2028 年 ロサンゼルスオリンピックにおいてフラッグフットボールが追加競技種目として決定されたことを契機として、新たにフラッグフットボールの公認指導者資格制度の整備が急がれることから、2025 年度中にテキスト作成とフラッグフットボール公認指導者講習会の開催に着手する。あわせて、フラッグフットボール公認指導者資格取得者には Jafa がフラッグフットボール審判員（初級）資格を付与する。

また、更新時期を迎える公認コーチ資格保有者に対する更新講習を計画的に開催するとともに、資格保有者に対して更新講習の受講を促す。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第 5 条第 1 項第 1 号に関連する事業として、コーチクリニック、フットボール教室を開催する。

初めてフットボールを始める選手たちを対象に、重大事故の未然防止等、選手の安全を守る観点から、技術項目や体力項目などを盛り込み、競技力向上および競技継続に繋げる。

公認指導者養成講座専門課程のテキストである「ショルダータックリング」ならびに「ヘッズアップ・ブロッキング」、Jafa が監修、発行する「からだづくりハンドブック」を活用したプログラムで進めていく。

高校生を対象に他競技の選手にアメリカンフットボールの魅力を周知するクロスオーバーアスリート測定会を実施し、選手層の拡充につなげる。

一方、選手だけではなく、加盟団体のコーチを対象にコーチコンベンションを開催し、課題の共

有や指導の方針の共有などを行い、指導力の向上を図る。

以上の取り組みを、加盟団体等からの要請に基づき「JFA フットボールアカデミーキャンプ」として実施する。

開催予定は以下のとおりである。

- ・ 2025 年 4 月：高校生指導者クリニック （日本高等学校連盟）
- ・ 2025 年 5 月：フレッシュマンクリニック （関西学生連盟）
- ・ 2025 年 5 月：ヘッズアップアカデミー （東北学生連盟）
- ・ 2025 年 6 月：ヘッズアップアカデミー （東海学生連盟/東海地区高校）
- ・ 2025 年 7 月：ヘッズアップアカデミー （北海道学生連盟/社会人クラブ）
- ・ 2025 年 7 月：コーチコンベンション （アスリート&コーチ委員会）
- ・ 2026 年 3 月：ヘッズアップアカデミー （沖縄 AF 協会）
- ・ 2026 年 3 月：ヘッズアップアカデミー （九州学生連盟）
- ・ 2026 年 3 月：ヘッズアップアカデミー （中四国学生連盟）
- ・ 日程未定：クロスオーバーアスリート合同測定会 （学生連盟 8 地区での実施）

主に高校生を対象に（16 歳以上）、競技に親しむためのコーチングや測定を行い、他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学でこの競技に取り組んでもらう環境を整備する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

3) 川崎市のまちづくり推進とアメリカンフットボールの普及活動

定款第 5 条第 1 項第 1 号及び第 11 号に関連する事業として、2006 年に締結した川崎市との協定に基づき、川崎市のまちづくり推進連絡協議会に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努める。

川崎市との連携を踏まえ、他の自治体との連携にも取り組みアメリカンフットボールの周知度の向上、ファンの拡大を図る。また、2028 年ロサンゼルス五輪の招待競技となったフラッグフットボールへの取り組みを、川崎市からも発信し、新しい観客層の獲得に努める。

2015 年 4 月からアメリカンフットボール準専用スタジアムとして運用開始された川崎富士見公園内の「富士通スタジアム川崎」を活用し、アメリカンフットボール関連競技団体及び指定管理者との協力体制のもと、「富士通スタジアム川崎」で開催するアメリカンフットボールの試合に多くの観客を集めるとともに、川崎市ならびに川崎区をはじめとする市内外の各団体の協力を得て、アメリカンフットボール（フラッグフットボール含む）の市民スポーツとしての定着を図る。

また、川崎市内の小学校を対象に、フラッグフットボールの普及・技術向上活動として、巡回指導、体験会、独自大会を開催する。

※以上は、川崎市からの助成金を受けて実施します。

4) 国際競技力向上に向けた取り組み

定款第 5 条第 1 項第 2 号に関連する事業として、フラッグフットボールの 2028 年 ロサンゼルスオリンピック追加競技に伴い、オリンピックを輩出することは業界初めてのチャレンジとなる。

オールフットボールとして力を結集し、JOC 選手強化事業を中心としたオリンピックへの体制づくりを充実するとともに、さらなる選手の育成、競技力向上を目指す。また、活動を通して指導者の交流や指導力の向上も行う。

国内での練習、試合、合宿、および必要に応じて海外での合宿・強化試合等も行っていく。

① フラッグフットボール アジア・オセアニア大陸選手権大会（世代：18 歳以上、男女）

2025 年 9 月末に中国・寧波で開催される IFAF 主催のフラッグフットボール国際試合。男女とも優勝しオリンピック出場権獲得に向け、JOC 選手強化プログラムに基づき強化を図る。

- ・2025 年 7 月 代表強化練習、東日本・西日本にて隔週末土日各 1 回をベースに実施
- ・2025 年 8 月 代表強化練習、東日本・西日本にて隔週末土日各 1 回をベースに実施
- ・2025 年 9 月中旬 代表強化練習、東日本・西日本にて週末土日各 1 回程度実施
- ・2025 年 9 月下旬 大会遠征（7 日程度）

※以上は、JOC 強化事業の助成を受けて実施します。

② フラッグフットボール JAPAN 代表候補、強化活動及び選考会（世代：18 歳以上、男女）

- ・2025 年 4 月～2025 年 6 月 JOC 強化指定選手を中心に、JOC 選手強化プログラムに基づき強化を図る。東日本・西日本それぞれで、週末月 4 回程度実施
- ・2025 年 12 月～26 年 3 月 新たな JOC 強化指定選手発掘を目指し、JOC 選手強化プログラムに基づき強化を図る。東日本・西日本それぞれで週末月 4 回程度実施

※以上は、JOC 強化事業の助成を受けて実施します。

③ 4 Nations 国際試合（世代：18 歳以上、男女）

2025 年 6 月に USA 協会が企画・主催するフラッグフットボール国際試合（強化試合）に 18 歳以上の選抜チームを男女それぞれ編成し派遣する。アメリカ、日本以外に、ドイツ、オーストラリアも参加予定。合同フットボールクリニック、国際試合を経験することにより、オリンピック世代のフラッグフットボール選手の競技力向上を図る。

- ・2025 年 4 月～6 月上旬 18 歳以上男女選抜メンバーの強化練習を東日本、西日本で、月 6 回程度実施
- ・2025 年 6 月 18 日～ アメリカ合宿、強化試合（5 日程度）

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

④ Junior FlagFootball International Cup 国際試合（世代：14～17 歳、男女）

2025 年 6 月にアメリカ合衆国で開催される、USA 協会主催のフラッグフットボール国際試合（強化試合）に、15 歳以下、17 歳以下、男女それぞれの 4 チームを派遣する。合同練習、国際試合を経験することによって、ジュニア世代フラッグフットボール選手の競技力向上を図り選手層を厚くする。

- ・2025 年 4 月～6 月上旬 15 歳以下、17 歳以下男女選抜メンバーの強化練習を東日本、西日本で月 2 回程度実施
- ・2025 年 6 月 18 日～ アメリカ遠征（5 日程度）

※以上は、JOC 強化事業の助成、および JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

⑤ The World Games 2025 総合競技大会（世代：18 歳以上、女子のみ）

8 月 7 日から 17 日まで中国・成都で開催される総合競技大会 TWG において、フラッグフットボールは世界選手権 FFWC 2024 の上位 7 カ国（女子日本チームは 3 位）と開催国・中国の計 8 カ国が参加権を獲得した。日本は 2022 年のバーミングハム大会に続いての参加となる。本大会は女子部門のみの実施であるが、選手の海外大会経験の蓄積と TWG というブランドによるフラッグフットボールの普及啓発のため参加する。

- ・ 2025 年 7 月～8 月上旬 女子選抜メンバーの強化練習を東日本、西日本で計 8 回程度実施

- ・ 2025 年 8 月 11 日～18 日中国・成都 遠征

※以上は、JSC スポーツ振興基金助成（JWGA 一括申請）の助成金を受けて実施します

⑥ フラッグフットボール日本選手権による選手発掘（世代：6 歳以上）

フラッグフットボール日本選手権で活躍する選手の中から、フラッグフットボール日本代表候補選手の発掘を行うとともに、国内競技レベルの向上、普及啓発を図る。

- ・ 2025 年 12 月：フラッグフットボール日本選手権開催（小学生・中学生）

- ・ 2026 年 3 月：フラッグフットボール日本選手権開催（高校生以上）

※以上は、JSC スポーツ振興基金助成の助成金を受けて実施します。

⑦ クロスオーバーアスリート合同測定会（世代：16 歳以上）

他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学でこの競技に取り組んでもらう環境を整備する。高校生を対象にトライアウトを実施する。

- ・2025 年は学生連盟 8 地区での実施、またフラッグフットボール選手の人材発掘も目指す。

⑧ 地域クラブ活動支援（世代：16 歳以上）

長期育成プログラムの趣旨に沿った、高校生クラブ活動を担う団体に対して、自立したクラブを目指し、立ち上げや活動等について各参加団体と協力・連携しながら支援を行う。

⑨ 若年層の競技人口拡大のための指導者支援及び環境整備支援（小中高世代）

若年層を指導する指導者のクリニックを実施及び、若年層がフットボールを選択するよう、大学・社会人を含めたオールジャパン体制でフットボール界全体の運営最適化に向け支援を行う。策定した育成ビジョンに沿った実施計画を構築していく。

⑩ 海外リーグへ挑戦する選手の発掘（世代：20 歳以上）

海外リーグ参加へ挑戦出来る環境を整えることにより、国内トップレベル選手のモチベーションアップを図る。

- ・ IMG アカデミーの留学説明会を日本において開催する。

- ・ 北米のプロリーグ（世界のトップレベル）への挑戦を支援する。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」、フラッグフットボール日本選手権の開催

定款第 5 条第 1 項 3 号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第 79 回ライスボウル」を主催する。アメリカンフットボールファンのみならず、競技で随一の知名度を誇るボウルゲームとして、今後とも多くのお客様に楽しんでもらえる日本選手権として定着させ

ていく。

また、フラッグフットボール日本選手権は、出場を目指すことにより選手競技力の向上が図られ、高いレベルの試合を観戦することによりファンが増嵩し、オリンピックを目指すフラッグフットボール JAPAN の基盤が強固なものになる。

結果として、アメリカンフットボール競技全体の普及発展に寄与する。

6) 高校連盟及びユース・フットボール総括団体の主催試合等に対する後援ならびに助成

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、高校連盟やユース・フットボール総括団体が主催する試合（日本選手権、選抜チーム対抗戦など）を後援ならびに助成する。大学・社会人へと続くフットボールキャリアパスを導くためにも、中学高校大会のクオリティアップはフットボール人口の増加（低下阻止）において重要な事業となる。

高校連盟に対しては、2024年度に引き続きクリスマスボウル（全国高等学校アメリカンフットボール選手権）と、ニューイヤールボウル（関西高校連盟選抜・関東地区選抜対抗戦）、パシフィッククリムボウル（関西高校連盟）を後援、助成を行う。中学生協会に対しては、日本中学生大会、チェスナットリーグには小学生、中学生大会について後援、助成を行う。

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、フットボール競技の強化や普及のための広報 PR に効果的なメディア露出を国内展開し国際試合を後援する。また、フラッグフットボールが2028年 ロサンゼルスオリンピックの追加競技として採択され、TWG 2025 成都大会、2025 アジア・オセアニア大陸選手権、2026 世界選手権など国際試合がいくつも開催される機運となった。IFAF が提唱する U17 アジア予選、U17 世界大会の構築に協力する。

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、競技力向上のため、さらに広報 PR のニュースづくりのためにも国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）等 IF が主催する国際試合に日本代表チームを派遣する。

また、フラッグフットボールが2028年 ロサンゼルスオリンピックの追加競技として採択され、2025 TWG 成都大会、2025 アジア・オセアニア大会、2026 世界大会など国際試合がいくつも開催される機運となった。単年度で終わることなく引き続き国際総合競技大会で常用採用されるような働きかけを行うとともに、国際総合競技大会での出場権を常時獲得できるようチーム作りを行う。また、強化試合である国際試合にも日本選抜チームを派遣する。

① フラッグフットボール アジア・オセアニア大陸選手権（男女の日本代表参加）

日 程：2025年9月下旬

会 場：中国・寧波

主 催：国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）

※以上は、JOC 強化事業の助成を受けて実施します。

② The World Games 2025（女子日本代表のみの参加）

日 程：2025 年 8 月 7 日～17 日（開催期間）

会 場：中国・成都

主 催：国際ワールドゲームズ連盟（IWGA）

※以上は、JSC スポーツ振興基金助成（JGWA 一括申請）の助成金を受けて実施します。

③ 4 Nations 国際試合（世代：18 歳以上、男女選抜）

日 程：2025 年 6 月 18 日～23 日（開催期間）

会 場：USA・ロサンゼルス

主 催：USA フットボール協会

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

④ Junior FlagFootball International Cup 国際試合（世代：14～17 歳、男女選抜）

日 程：2025 年 6 月 18 日～23 日（開催期間）

会 場：USA・ロサンゼルス

主 催：USA フットボール協会

※以上は、JOC 強化事業の助成、および JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

9）国際試合への審判員の派遣

定款第 5 条第 1 項第 4 号に関連する事業として、国際試合に審判員を派遣する。

国際大会の経験を積ませ、その内容をフィードバックすることで、国内審判員の意識向上及びスキル向上を図る。

2025 年度は、IFAF 等の要請に応じ IFAF 等の要請に応じ中国・寧波で開催される、フラッグフットボール アジア・オセアニア大陸選手権に審判員を派遣する。

10）競技規則の制定・告知・頒布

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、プレーヤーの安全・ゲームの高潔さの維持、攻守のバランスの維持などを目的に、競技規則委員会（2025 年 3 月 22 日開催）の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の 2025 年度公式規則について、2024 年度公式規則からの変更内容を決定し、4 月発行予定の 2025 年度・公式規則変更予定報および 7 月発行予定の 2025 年度・公式規則変更内容・決定報を通じて、加盟団体に周知する。2025 年度は米国が Off Year で大幅なルール変更を行わないため、日本は公式規則・公式規則解説書（ルールブック）の発行を行わない。

11）安全対策に関する周知活動及び医・科学研究会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、外傷、障害を減少させるために、全国各チームに対して安全対策の啓発活動を行う。

シーズン終了後（2026 年 2 月）に「安全対策全国会議」、および「アメリカンフットボール医・科学研究会」を例年通り開催し継続的な安全対策の拡大普及を図る。

コロナ禍後の重大事故に関する分析結果を元に、今後も全国の各連盟、協会と協力、連携して、

全国の重大事故ゼロを目標に、注意喚起、安全指導を徹底する。

また、フラッグフットボール日本代表チームにおける医療支援の充実を図る。

① 安全対策全国会議の開催

全国の JAF A 加盟団体の安全対策担当者が一堂に集まり、重大事故や試合時外傷の発生状況について情報を共有し、安全対策を協議し確認する。

② アメリカンフットボール医・科学研究会の開催（関西地区を予定）

ドクター、トレーナー、選手、指導者が一堂に会し、過去の重大事故の検証や、スポーツ医・科学における最新の知見を共有し、現場の選手の安全確保のための情報共有、意見交換を行い、安全対策の構築、実践に役立てる。

1 2) ドーピング検査

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構の指定によりライスボウルにおいてドーピング検査を実施し、アメリカンフットボールがクリーンスポーツであることを広く発信する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、アンチ・ドーピング講習会を開催する。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの主旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請 (TUE)、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難い。そのため、フラッグフットボールでは第 4 回 Junior Flag Football International Cup、4Nations による強化試合、The World Games、アジアオセアニア大会への出場予定選手・スタッフにアンチ・ドーピングとドーピング検査、薬剤や TUE 申請に関する最新情報を提供する。アメリカンフットボールでは日本選手権(ライスボウル)出場予定選手・スタッフにフラッグフットボールと同様にアンチ・ドーピングとドーピング検査、薬剤や TUE 申請に関する最新情報を提供する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

1 4) 受講者推薦（日本スポーツ協会公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー養成講習会）

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催するスポーツドクター養成講習会、及びアスレティックトレーナー養成講習会の受講生を推薦する。

JAF A から推薦したドクター、トレーナーが資格取得後に、アメリカンフットボールの現場で安全対策の業務に参画することが目的であり、今後もこの条件を満たす受講者を推薦する。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第 5 条第 1 項第 7 号に関連する事業として、あらゆる機会をとらえて、国、地方自治体その他の競技場または競技場用地所有者に対して、アメリカンフットボールに適した競技場の設置促

進を働き掛ける。

川崎市、川崎富士見公園内にはアメリカンフットボール準専用スタジアム「富士通スタジアム川崎」があり、周辺に緑を配置したスポーツ活動の拠点とする整備計画がある。

2023 年度より富士見公園全面改修工事が続いており、今後も川崎市と連携しながら改修工事に協力をしていく。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第 5 条第 1 項第 5 号及び第 8 号に関連する事業である。アメリカンフットボールは以下の基本原則により、全米大学体育協会（NCAA : National Collegiate Athletic Association）で毎年競技規則が改訂され、それに伴い審判員のメカニックも米国 CFO（College Football Officiating LLC）で改訂されている。

競技規則改訂の基本原則

- 1 プレーヤーの安全
- 2 ゲームの高潔さを維持する
- 3 コーチングが容易である
- 4 審判が容易である
- 5 攻守のバランスを維持する

この変更の主旨を正確にかつ迅速に把握するために、我々の諸先輩が NCAA と CFO のキーパーソンとネットワークを構築し、毎年 1 月に実施される CFO のフットボール・コーディネーター・ミーティングにオブザーバー参加する機会を得ている（オブザーバー参加は日本のみ）。

この会議で得た情報をもとに競技規則変更予定報、決定報、競技規則書をタイムリーに発行し、チーム関係者や審判員等からの疑問に対して要すれば米国のキーパーソンに問合せを行い、適切な回答を行うことができている。

また、上記に加え審判技術取得、向上のためにナショナル・レフェリー・カンファレンス、及びナショナル・インスタントリプレー・クリニックにも関係者を派遣している。

得られた情報やネットワークは、競技規則変更決定報、日本アメリカンフットボール審判協会から発行しているアメリカンフットボール オフィシエーティング マニュアル、日本社会人アメリカンフットボール協会から発行しているアメリカンフットボール インスタント リプレー ケース ブックの発行、各審判組織の教育資料等に活用している。

今後もこの状態を維持し、審判委員会および競技規則委員会の世代交代の際も適切に引継ぎができるように、派遣人数の増加を図りたいが、2025 年度は以下のとおり 2024 年度と同じ人数の派遣とし、次年度以降に人数増加の具体的な要望を行いたい。

- ・フットボール・コーディネーター・ミーティング：2026 年 1 月。2 名を派遣。
- ・ナショナル・レフェリー・カンファレンス：2025 年 5 月。1 名を派遣。
- ・ナショナル・インスタントリプレー・クリニック：2025 年 5 月。1 名を派遣。

1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第 5 条第 1 項第 9 号に関連する事業として、Jafa 専用 WEB サイトを活用して、Jafa 及びアメリカンフットボール、フラッグフットボールに関する情報を発信する。

JAJFA 公式 WEB サイト運用の充実と共に、サイトリニューアルの実施を始める。本協会の公報としての役目を果たすために WEB サイトを活用した情報公開を実施する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

18) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 10 号に関連する事業として、2026 年に開館 30 周年を迎える「日本アメリカンフットボールの殿堂」に日本全国のアメリカンフットボールの歴史を展示できるような展示・保管ルールの見直しを進め、日本のアメリカンフットボールの 100 周年に向けての殿堂展示スペースの拡張について Keep 協会と検討を開始します。

2024 年度は第 6 回の殿堂顕彰者が選考され、2025 年 1 月 3 日の日本選手権ライスボウルで発表され、日本アメリカンフットボール協会 WEB サイトの殿堂ページに掲載した。

- ・2025 年 6 月 21 日に、Keep 協会ポール・ラッシュ記念館「日本アメリカンフットボールの殿堂」において、掲額式を開催する。
- ・日本のアメリカンフットボール 90 周年の歴史のページに掲載する。

19) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第 5 条第 1 項第 11 号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)、一般財団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)、一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)、公益財団法人日本フラグフットボール協会 (JFFO)、NPO 法人日本ワールドゲームズ協会など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動する。

以上